



2025年3月期 連結決算概況
2026年3月期 通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 取締役 代表執行役 会長兼社長兼 CEO兼 ESGオフィサー 竹内 康雄 | 執行役 CFO 泉 竜也 | 2025年5月13日

- 代表執行役の竹内でございます。
- オリンパス株式会社「2025年3月期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

2025年3月期連結業績

売上高

9,973 億円

+3% / +8%



ESD +4% / +8%



TSD +3% / +7%

調整後営業利益

1,885 億円

+10% / +25%

調整後営業利益率

18.9%

+2.6pt

■ 前期比 為替影響調整後
■ 前期比 円ベース為替込み

1 年間を通じて販売が好調な北米が牽引し、売上高は2月に公表した見通しに近い水準を達成。調整後営業利益は1,885億円、調整後営業利益率は18.9%となり、いずれも見通しを上回って着地

2 「Elevate」の取り組みは、引き続き順調に進捗。真に患者さんの安全を第一とした品質管理の実現に向けて強固な基盤を構築し、企業文化をさらに強化。2026年3月期末までにFDAに対するすべてのコミットメントを完了する予定

経営戦略（基本的な指針）と2025年3月期までの進捗

患者さんの安全と持続可能性



- Elevateを推進し、顧客への供給を安定化
- ESG戦略を実行し、企業文化を醸成

成長のためのイノベーション



- 社内外のイノベーションの最適化と期日通りの納品
- グローバルな事業拡大と医療従事者（HCP）エンゲージメントの推進

生産性の向上



- グローバル・オペレーティングモデルを最適化
- 生産性を向上

- 2025年3月期は、能登半島地震に端を発したサプライチェーンの混乱や、中国における厳しい事業環境、そして前CEOの突然の退任など相次ぐ、さまざまな課題に直面した1年でした。このような状況にありながらも、年間を通じて消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が好調な北米が牽引し、実績は堅調に推移しました。売上高は2月に公表した見通しに近い水準を達成し、調整後営業利益は1,885億円、調整後営業利益率は18.9%と、いずれも見通しを上回って着地しています。
- 品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」は、米国食品医薬品局（FDA）に対するコミットメントに沿って、引き続き順調に進捗しました。2026年3月期末までにFDAに対するすべてのコミットメントを完了する予定です。
- 経営戦略でお示した、基本的な指針の「患者さんの安全と持続可能性」、「成長のためのイノベーション」、「生産性の向上」については順調に進捗しています。
- Elevateは大きな前進を遂げており、真に患者さんの安全を第一とした品質管理の実現に向けて強固な基盤を構築し、企業文化をさらに強化できたと感じています。

2026年3月期連結業績見通し

売上高

9,990 億円

+4% / 0%

GIS +4% / +1%

SIS +3% / ▲1%

調整後営業利益

1,750 億円

+1% / ▲7%

調整後営業利益率

17.5%

▲1.4pt

■ 前期比 為替影響調整後
■ 前期比 円ベース為替込み

- 1 売上高は堅調に推移し、為替影響調整後では前期比4%の成長を見込む。この先の持続的な成長と収益性の向上に向けた戦略投資を加速し、調整後営業利益は1,750億円、調整後営業利益率は17.5%となる見通し
- 2 米国関税政策の影響は不確実性が高く、見通しに織り込んでいない。医療現場に対する当社製品やサービスの提供継続を最優先とした上で、影響の低減に向けた対応を進める
- 3 安定したキャッシュフローを有する医療機器専門企業として、配当水準を大幅に引き上げ、2026年3月期の年間配当は10円増の30円を予定。500億円の自己株式の取得を決定
- 4 厳正な選考プロセスを経て、6月1日付でボブ・ホワイトを新CEOに任命。ヘルスケア業界での豊富な経験によって、当社の次なる変革フェーズをリード

- 2026年3月期の売上高は、為替影響調整後では前期比4%のプラス成長と堅調な推移を見込んでいます。調整後営業利益は1,750億円、調整後営業利益率は17.5%となる見通しです。これは、今後の持続的な成長と収益性の向上に向けた体制強化のための戦略投資を実施することによるものです。
- 米国の関税政策による影響については、不確実性が高く、見通しに織り込んでおりません。医療現場に対する当社製品やサービスの提供継続を最優先とした上で、影響の低減に向けた対応を進めてまいります。
- 2026年3月期末の配当は、前期比10円増となる30円に増配予定です。当社は過去数年間の企業変革により、医療機器専門企業となり、キャッシュの創出力が向上しています。そのような状況を鑑み、配当水準を大幅に引き上げることを決定しました。また、自己株式500億円の取得も決定しています。
- 最後に、2025年6月1日付で当社の新たな代表執行役 社長兼CEO（最高経営責任者）にボブ・ホワイトを任命しました。さらに、彼は2025年6月開催予定の定時株主総会において、取締役候補として提案される予定です。ボブの豊富な経験、卓越したリーダーシップ、メドテック業界に関する知見は、オリンパスが潜在能力を発揮し、業界のグローバルリーダーとしてふさわしいイノベーションを創出して、さらなる成長を実現することに寄与してくれると確信しています。

消化器内視鏡ソリューション事業 2026年3月期の重点戦略

GIS Gastrointestinal Solutions
Division

FY2026見通し

売上高成長率
(為替影響調整後) **+4%**
調整後営業利益 **1,735億円**
調整後営業利益率 **25.6%**



Page 5 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

世界をリードする消化器内視鏡分野

消化器内視鏡システム「EVIS X1」でグローバル市場への浸透と売上成長を加速
「OLYSENSE¹」でインテリジェント内視鏡医療エコシステムを拡大

消化器内視鏡

- 米国市場においてEVIS X1の発売第2フェーズを開始。EDOF（被写界深度拡大技術）搭載スコープにて差別化されたラインナップを提供：高倍率と広い焦点による拡大観察により、より容易な組織の識別に寄与
- 新興国市場での市場シェア拡大をターゲットにしたアプローチを継続
- 中国での消化器内視鏡の現地生産と市場投入に向けた施策の加速
- 「Aplio」（キヤノンメディカルシステムズとの協業）と「EU-ME3」の2つの超音波内視鏡プラットフォームの導入を推進
- 2026年3月期下期に欧州および米国で最初のOLYSENSE製品を発売

消化器科処置具

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充
- 主要市場である米国、欧州、日本を含む地域で10以上の製品を発売

医療サービス

- 予防保守による稼働時間の拡大、予算、運用サポートなどの顧客ニーズに基づき、業界をリードするサービスを提供
- サービス部門と修理部門の緊密な連携により、効率的で顧客重視のサービスを提供

¹ OLYSENSEはオリンパス株式会社および/またはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します
(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

- 続いて、2026年3月期における事業ごとの重点戦略についてお話しします。
- 2025年3月期の第3四半期決算説明会でご説明させていただいた通り、2025年4月からより効率的で、患者さんとお客様中心の展開とするために組織を改編しました。その一環として、事業部門である内視鏡事業と治療機器事業を、消化器内視鏡ソリューション事業（GIS事業）とサージカルインターベンション事業（SIS事業）の新しい部門に再編しています。今後も消化器科、泌尿器科、呼吸器科の注力3領域を中心に事業投資を進めてまいります。
- まず、GIS事業では、グローバル市場における消化器内視鏡システム「EVIS X1」の浸透と売上成長の加速に注力するとともに、主にクラウド型の統合された内視鏡アプリケーションおよびソリューションの新しいサブブランドである「OLYSENSE」によってインテリジェント内視鏡医療エコシステムの拡大を推進してまいります。
- 消化器内視鏡では、米国において、EVIS X1の発売第2フェーズとして、フラッグシップモデルであるEDOF技術搭載スコープを2026年3月期中に発売する予定ですが、一日も早い市場導入を目指して、リードタイムの短縮に取り組んでいきます。新興国市場ではシェアの持続的拡大に向けた取り組みを推進し、中国では消化器内視鏡の現地生産に向けた準備を加速してまいります。また、超音波内視鏡プラットフォームの市場拡大も推進してまいります。OLYSENSEについては、欧州および米国で最初のCAD/AI製品を展開する予定です。詳細は後ほどご説明いたします。
- 消化器科処置具については、引き続きERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充し、主要市場である米国、欧州、日本を含む地域で10以上の製品を導入してまいります。
- 医療サービスについては、予防保守による稼働時間の拡大や、予算、運用サポートの面において顧客ニーズを満たし、業界をリードするサービスを提供してまいります。

インテリジェント内視鏡医療エコシステムの ポテンシャルを最大限に引き出すOLYSENSE¹

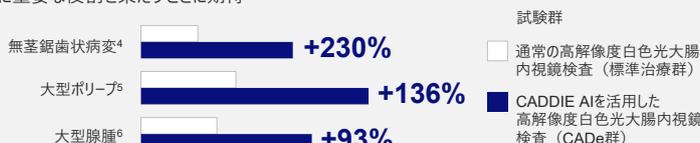
OLYSENSEプラットフォームは、臨床および業務効率の向上を目的として開発されたクラウド型のデジタル内視鏡システム。最初のCAD/AIアプリケーションでは、上部および下部消化管の病変の検出、鑑別、分析を支援

臨床的関連

クラウド型のCADDIE²は、データセットの改良によって高リスク病変の検出精度が向上しており、大腸内視鏡検査後の大腸がんの発生率低下に重要な役割を果たす可能性がある³

CADDIEを使用したランダム化比較試験の結果³

- 将来的なアップデートと機能拡張が可能なクラウド型システムの有効性が実証
- 臨床的に重要なポリープの検出率が向上することで、大腸内視鏡検査後の大腸がんの発生率低下に重要な役割を果たすことに期待



¹ OLYSENSEはオリンパス株式会社およびまたはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します。² 米国では、CADDIEは大腸ポリープが疑われる病変の検出を支援する目的のみ認可されています。CADDIEには、CADDIEのポリープ検出機能がオンであり、使用中であることをユーザーが確認するための便利な機能として、「盲腸到達通知」AI機能が搭載されています。欧州では、CADDIEは「盲腸到達通知」AI機能および「粘膜洗浄度」AI機能を含む、大腸ポリープが疑われる病変の検出および診断を支援する機能が承認されています。^{3,4,5,6} データは文書作成時点において学術審査を完了していません。未発表です。Odin Medical社に保管されているデータ、EAGLE試験 NCT05730192 ³ EAGLE試験では、鑑別機能は不使用⁴ 大腸内視鏡検査あたりの無茎鋸歯状病変の割合⁵ 大腸内視鏡検査あたりの大型ポリープの割合⁶ 大腸内視鏡検査あたりの大型腺腫の割合
(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

Page 6 No data copy / No data transfer permitted



2026年3月期下期に商業化を開始

米国 欧州

OLYSENSEハブと一部のCAD/AI製品



CADDIE² 医療機器用ソフトウェア
大腸ポリープ用のクラウド型コンピューター検出・鑑別支援



CADU医療機器用ソフトウェア
上部消化管の潜在的な異形成検出をサポートするクラウド型コンピューター検出支援



SMARTIBD医療機器用ソフトウェア
潰瘍性大腸炎分析用のクラウド型コンピューター支援



OLYMPUS

- 先ほどお伝えしたように、OLYSENSEプラットフォームを活用したインテリジェント内視鏡医療エコシステムの展開は、当社のGIS事業戦略の重要な柱となります。ここでは、2026年3月期に注力するポイントをご説明したいと思います。
- 当社で最初に販売するOLYSENSEの製品は、上部および下部消化管の病変の検出、鑑別、分析を支援するCAD/AIソフトウェアアプリケーションです¹。
- これは2025年のCADeガイドライン、欧州消化管内視鏡学会、米国消化器学会、ブリティッシュ・メディカル・ジャーナルの提言を踏まえたものであり、この当社独自の方向性に確信を持っています。
 - AI搭載のクラウド型設計により、アルゴリズムの性能を頻繁に改善し、消化器科医向けに新たな機能を継続的に追加可能です。
 - また、CADDIE AI ポリープ検出アルゴリズムは、見落としが多く、がん化しやすい無茎鋸歯状（むけいきよしじょう）病変や大型のポリープについて機械学習されています。最初の試験データでは、OLYSENSEを活用した大腸内視鏡検査により、不必要な切除を増やすことなく、臨床的に関連する病変の検出率が大幅に改善されることが示されています²。
- 現在、OLYSENSEハブとCAD/AI製品のパイロットプログラムを米国と欧州の一部の病院で実施しており、DDW（肝臓学会や内視鏡学会等の共同で開催される、大規模な米国消化器病学会）や欧州消化管内視鏡学会などのイベントでポジティブなフィードバックをいただいています。
- 当社は、顧客エンゲージメント、安定した収益、市場シェアの向上を背景に、長期にわたる高い成長ポテンシャルを確信しています。OLYSENSEのCAD/AI製品は、2026年3月期の下期からサブスクリプションモデルで順次販売を開始する予定です。

¹ 米国では、CADDIEは大腸ポリープが疑われる病変の検出を支援する目的のみ認可されています。CADDIEには、CADDIEのポリープ検出機能がオンであり、使用中であることをユーザーが確認するための便利な機能として、「盲腸到達通知」AI機能が搭載されています。欧州では、CADDIEは「盲腸到達通知」AI機能および「粘膜洗浄度」AI機能を含む、大腸ポリープが疑われる病変の検出および診断を支援する機能が承認されています

² データは文書作成時点において学術審査を完了していません。未発表です。Odin Medical社に保管されているデータ、EAGLE試験 NCT05730192 腺腫、無茎鋸歯状病変、または近位部の大型過形成性ポリープと確定された切除例の割合を示す「陽性一致率（PPA）」は、標準治療群の53.4%に対し、CADe群は53.9%で非劣性が認められました

サージカルインターベンション事業 2026年3月期の重点戦略

SIS Surgical & Interventional
Solutions Division

FY2026見通し

売上高成長率
(為替影響調整後) **+3%**

調整後営業利益 **220億円**

調整後営業利益率 **6.9%**



内視鏡/腹腔鏡手術を基盤とした泌尿器科、呼吸器科、 外科手技用エコシステム

リーダーシップを確立するため、積極的にポートフォリオを管理
主要なイノベーションを主力市場に導入

泌尿器科

- iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、コアのイメージング技術とプラズマ技術の普及率を向上
- SOLTIVE SuperPulsed Laser Systemにより、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がんの診断とステージ分類の分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

外科内視鏡

- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の米国及び中国（2026年3月期第1四半期）での導入を目指し、市場競争力の向上を図る

(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

- 続いてSIS事業では、内視鏡/腹腔鏡手術を基盤とした泌尿器科、呼吸器科、外科手技用エコシステムを展開してまいります。リーダーシップを確立するため、積極的にポートフォリオを管理し、主要なイノベーションを主力市場に導入していきます。
- 泌尿器科については、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、コアのイメージング技術とプラズマ技術の普及率を向上します。結石破碎治療における成長を拡大する尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」については、次のスライドでご紹介させていただきます。
- 呼吸器科については、EVIS X1プラットフォームの導入促進を継続するとともに、肺がんの診断とステージ分類の分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力してまいります。
- 外科内視鏡については、外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」を米国および中国で導入する予定であり、これによって市場競争力の向上を図ります。

尿路結石のケアパスウェイを強化する製品の販売地域を拡大

尿路結石の
ケアパスウェイ



有病率の上昇
最大 **13%** 人口比¹
5年再発率²
推定 **40%**



泌尿器科

SOLTIVE SuperPulsed Laser System



ツリウムファイバーレーザー装置で

シェア **1位**³

FY2025における発売地域の成長率⁴

+10%以上

- 主に尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）に発生した結石をレーザー装置によって細かく破砕して体外に排出するため用いられるもので、ツリウムファイバーレーザー技術を利用した製品
- 尿路結石の効率的な破砕により、手術時間の短縮や患者さんの負担軽減に貢献

発売地域

米国、欧州、アジア・オセアニア、
日本 ▶ **近日販売開始予定**

主な疾患

- 尿路結石
- 前立腺肥大症（BPH）

¹出典：Epidemiology of stone disease across the world – World J Urol. 2017 Sep;35(9):1301-1320. doi: 10.1007/s00345-017-2008-6 ²出典：Recurrent Nephrolithiasis in Adults: A Comparative Effectiveness Review of Preventive Medical Strategies Agency for Healthcare Research and Quality (www.effectivehealthcare.ahrq.gov), published online June 15, 2011. ³当社の市場シェアは、公開データや当社の調査によるもので、米国、ドイツ、英国、イタリア、フランス、スペイン、日本、中国に関するものです ⁴泌尿器科の売上高成長率（注）医薬品医療機器等法承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

- 中でも、本日は2026年3月期の成長ドライバーとして期待している製品を当社が注力する対象疾患と合わせて二つ取り上げたいと思います。
- まず、尿路結石は尿の中にある成分が、なんらかの原因で結晶となり、石のように固まってしまう疾患ですが、近年有病率が上昇しており、推定で40%の患者さんが5年以内に再発しているとされています。
- この治療ソリューションとして、当社では強力かつ市場をリードするポートフォリオを揃えています。
- オリンパスは結石破砕用の新しいツリウムファイバーレーザーを初めて導入した企業であり、レーザーシステムとレーザーファイバーの双方においてトップシェアを確保しています。SOLTIVE SuperPulsed Laser Systemは、すでに米国、欧州、アジア・オセアニアで販売していますが、2025年3月期はこれら地域で二桁成長を実現しました。今後日本での販売開始も予定しており、さらなる売上への貢献を期待しています。

肺がんのケアパスウェイを強化する新製品を発売

肺がんの
ケアパスウェイ



患者数¹
推定 **400** 万人以上
がん関連の死因²
1 位



呼吸器科

細径EBUSスコープ



EBUSスコープで
シェア**1**位³
FY2025における
EBUS-TBNA関連の成長率⁴
+10%以上

- 細径EBUSスコープと専用の吸引生検針により、肺の末梢領域においても、超音波画像でリアルタイムに確認しながら組織や細胞の採取をサポート

発売地域

欧州、アジア・オセアニア、日本
▶ **近日販売開始予定**

主な疾患

- 肺がん

¹出典：Epi Database©.Cernerに2024年7月にアクセス。米国、EU主要5カ国、日本、中国の2023年のデータ ²出典：GLOBOCAN 2022 ³当社の市場シェアは、公開データや当社の調査によるもので、米国、ドイツ、英国、イタリア、フランス、スペイン、日本、中国に関するものです ⁴呼吸器科の売上高成長率 (注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

- 続いて、肺がんは、推定400万人以上の患者さんがおり、がんの中でも死亡率が世界1位となっている疾患です。
- 肺がんは早期に発見されれば、手術での治療の可能性が高くなります。当社のEBUSスコープはこれまで肺がんの種類や診断や、進行度合いを診断する病期診断（ステージング）に使われ、他の検査機器による結果と合わせて、肺がんの治療方針の決定に役立ってきました。
- 今期発売する細径EBUSスコープによって、肺の末梢領域においても、超音波画像でリアルタイムにリンパ節や病変を確認しながら組織や細胞の採取をサポートすることができるようになります。
- 2026年3月期は、欧州とアジア・オセアニア、日本での販売開始を目指しています。

新CEOの任命



ボブ・ホワイト

代表執行役 社長兼CEO（最高経営責任者）¹
および、新任取締役候補

¹ 2025年6月1日時点（予定）

任命の理由

- ・ メドテック業界におけるグローバルと地域の両方での卓越した豊富な経営・リーダーシップ経験
- ・ 研究開発、品質保証・法規制対応（QARA）、M&A、組織健全性における変革の成功実績
- ・ 革新的成長をリードする熱意



オリンパスは、市場をリードするソリューション、最先端技術、そして優れた人材で知られています。このたび、自身の経験を活かし、同社の継続的な成功と成長に貢献できることを大変楽しみにしています”

- 最後に新CEOのボブ・ホワイトについて、簡単にご紹介させていただきます。
- メドテック業界において、ボブはグローバルと地域の両方で豊富な経験を持つリーダーとして評価されています。彼は、2024年4月までメドトロニックのエグゼクティブ・バイス・プレジデント兼メディカル・サージカル・ポートフォリオプレジデントを務め、それ以前は、シンガポールを拠点とする同社のアジア・パシフィックのシニア・バイス・プレジデント兼プレジデントとして、アジア太平洋地域と日本地域の企業変革を推進しました。業界を牽引するグローバル規模の組織からベンチャー事業まで、幅広いマネージメント経験の中で目覚ましい成果を上げています。
- ボブは、イノベーションに関する取り組みでも高いリーダーシップを発揮してきました。メドトロニック社の呼吸器 & モニタリングポートフォリオを強化したほか、消化器事業ポートフォリオを率い、さらには医療ロボティクスの陣頭指揮も執ってきました。市場や顧客との緊密な関わりを通じて医師のニーズを理解しながら、研究開発やM & Aを主導し、戦略的成長と価値創造を実現しています。
- メドトロニックへの入社以前は、GEヘルスケア、マージ・ヘルスケア、IBMのヘルスケア部門でリーダーシップのポジションを歴任し、ヘルスケア業界でのキャリアを通じて、世界中の患者さんの生活向上に貢献してきました。
- このように業界における豊富な知識と専門性を活かしてオリンパスに貢献してくれることを確信しています。今後も彼とともに、私たちにしかできない革新的な医療価値を提供し続けることで、持続的な成長の実現と企業価値の向上に努めてまいります。
- それでは続いて、CFOの泉 竜也より2025年3月期の業績概況についてご説明させていただきます。

2025年3月期 通期実績 連結業績概況

- 2月公表見通し比：売上高は概ね見通し通りの水準を達成。営業利益・調整後営業利益は見通しを上回って着地
- 売上高：消化器内視鏡システム「EVIS X1」をはじめ、注力3領域で二桁成長を実現した北米が牽引。為替の追い風もあり、+8%成長
- 営業利益・調整後営業利益：前期に計上したVeran Medical Technologies社関連の損失の減少や為替の追い風もあり、営業増益を達成。調整後営業利益率は約19%
- 親会社の所有者に帰属する当期利益：安定した収益基盤により1,179億円、EPSは103円

	通期実績 (4-3月)				2月公表通期見通し (4-3月)	
	(単位：億円)	FY2024	FY2025	前期比	為替影響調整後	FY2025
売上高	9,258	2 9,973	+8%	+3%	1 9,975	100%
売上総利益 (売上総利益率)	6,184 (66.8%)	6,837 (68.6%)	+11% (+1.8%)	+4%	6,730 (67.5%)	102%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,668 (50.4%)	4,957 (49.7%)	+6% (▲0.7%)	+3%	4,990 (50.0%)	99%
その他の収益および費用など	▲1,003	▲256	-	-	▲230	-
営業利益 (営業利益率)	514 (5.6%)	3 1,625 (16.3%)	+216% (+10.7%)	+176%	1,510 (15.1%)	108%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,513 (16.3%)	1,885 (18.9%)	+25% (+2.6%)	+10%	1,745 (17.5%)	108%
税引前利益 (税引前利益率)	436 (4.7%)	1,591 (16.0%)	+265% (+11.2%)		1,460 (14.6%)	109%
当期利益	2,429	1,179	▲51%	2025年3月期配当 年間配当20円	1,050	112%
親会社の所有者に帰属する当期利益	2,426	4 1,179	▲51%		1,050	112%

¹「売上高」から「税引前利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

- CFOの泉でございます。
- 私から2025年3月期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。
- 2025年3月期は外部環境等により難しい局面もありましたが、2月公表の通期見通しに対しては、為替は円高に動いたものの、売上高は概ね見通し通りの水準を達成し、営業利益・調整後営業利益に関してはともに見通しを大きく上回る結果となりました。
- 売上高は9,973億円と、為替の追い風もあり、前期比8%の成長となりました。単四半期および通期実績としても過去最高¹の売上高となりました。
- 消化器内視鏡システム「EVIS X1」をはじめ、当社の注力3領域（消化器科、泌尿器科、呼吸器科）全てで二桁の成長を実現した北米が牽引しました。
- 一方、中国は国産優遇策などの影響もあり競争環境が激化し、通期では厳しい結果となりましたが、第4四半期（1-3月）では12%のプラス成長となりました。不透明な事業環境下ではありますが、状況を注視しながら、中国における現地生産の準備を加速してまいります。
- 営業利益は1,625億円と前期から大幅な増益です。前期に計上したVeran Medical Technologies社関連の損失の減少や為替の追い風もあり、営業増益となりました。
- 調整後営業利益は1,885億円、前期比で25%増加しました。調整後営業利益率は2.6ポイント改善し、18.9%でした。
- 親会社の所有者に帰属する当期利益は、安定した収益基盤により1,179億円、EPSは103円となりました。
- 2025年3月期末の配当につきましては、公表済みの見通し通り前期比2円増配の20円とさせていただきます。

¹ 医療分野（内視鏡事業・治療機器事業）の売上高

2025年3月期 通期実績 内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2024 通期	FY2025 通期	FY2025 2月公表 通期見通し	達成率
売上高	5,866	6,361	6,340	100%
営業利益	1,047	1,414	1,375	103%
その他の収益および費用	▲284	▲174	▲140	-
調整後営業利益	1,331	1,588	1,515	105%
営業利益率 (為替影響調整後)	17.8%	22.2% (20.5%)	21.7%	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	22.7%	25.0% (23.3%)	23.9%	-

FY2025 vs FY2024 (4-3月) 売上高成長率

円ベース 為替込み

為替影響 調整後

	円ベース 為替込み		為替影響 調整後
■ 消化器内視鏡	8%	消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が好調な北米で+27%の成長。一方、国産優遇策などの影響もあり競争環境が激化する中国で減収。「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡の中で約25%	3%
■ 外科内視鏡	9%	中国で減収の一方、北米やアジア・オセアニアで増収。主に北米で、手術システムインテグレーションに係る新製品が好調に推移した結果、プラス成長	5%
■ 医療サービス	9%	保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上に加え、新規契約の増加もあり、欧州や北米を中心に全地域でプラス成長	5%
合計	8%		4%

- 次に各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は前期比8%の成長でした。調整後営業利益は1,588億円と前期比で増益、調整後営業利益率は25.0%と利益率も改善しています。
- 各領域の事業概況ですが、消化器内視鏡では、消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が大変好調に推移した北米で+27%の成長となりました。一方、国産優遇策などの影響もあり、競争環境が激化する中国で減収となりました。
- 外科内視鏡では、中国で減収の一方、北米やアジア・オセアニアで増収となりました。主に北米で、手術システムインテグレーションに係る新製品が好調に推移した結果、前期比プラス成長となりました。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上に加え、新規契約の増加もあり、欧州や北米を中心に全地域でプラス成長となりました。

2025年3月期 通期実績 治療機器事業



(単位: 億円)	FY2024 通期	FY2025 通期	FY2025 2月公表 通期見直し	達成率
売上高	3,373	3,607	3,630	99%
営業利益	▲85	615	545	113%
その他の収益および費用	▲655	▲83	▲85	-
調整後営業利益	570	698	630	111%
営業利益率 (為替影響調整後)	-	17.0% (16.2%)	15.0%	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	16.9%	19.3% (18.5%)	17.4%	-

FY2025 vs FY2024 (4-3月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

事業領域	円ベース 為替込み	為替影響 調整後
■ 消化器科処置具	6%	2%
■ 泌尿器科	11%	6%
■ 呼吸器科	15%	10%
■ その他の治療領域 ¹	▲3%	▲7%
合計 ¹	7%	3%

¹ 他社製品の取り扱い終了の影響を考慮した場合、その他治療領域の円ベースの成長率は+3%、為替影響調整後の成長率は▲1%。治療機器事業の円ベースの成長率は+8%、為替影響調整後の成長率は+4%

Page 13 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 治療機器事業です。売上高は前期比7%の成長でした。調整後営業利益は698億円と前期比で増益、調整後営業利益率は19.3%と内視鏡事業同様に治療機器事業の利益率も改善しています。
- 各領域の事業概況ですが、注力3領域である、消化器科処置具、泌尿器科、呼吸器科の全ての領域で、北米や欧州を中心にプラス成長となりました。
- 消化器科処置具では、肝胆膵疾患の製品群などの売上が増加しました。
- 泌尿器科では、前立腺肥大症用の切除用電極や尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の売上が増加しました。
- 呼吸器科では、超音波気管支鏡ガイド下針生検で主に使用される処置具や超音波気管支鏡が好調に推移しました。

連結財政状態計算書

- 1 現金及び現金同等物：自己株式の取得および借入金の返済を主因に、減少
 2 資本：増加要因として当期利益の計上等があった一方、自己株式の取得及び配当金の支払により、微減

(単位：億円)	2024年3月末	2025年3月末	増減額		2024年3月末	2025年3月末	増減額
流動資産	8,003	6,794	▲1,209	流動負債	4,317	4,254	▲63
現金及び現金同等物	3,409	2,525	1 ▲884	社債および借入金	700	950	+250
棚卸資産	1,900	1,871	▲29	非流動負債	3,453	2,557	▲896
非流動資産	7,339	7,534	+195	社債および借入金	2,296	1,341	▲955
有形固定資産	2,600	2,634	+34	資本	7,572	7,517	2 ▲55
無形資産	920	940	+20	自己資本比率	49.4%	52.5%	+3.1pt
のれん	1,803	1,802	▲1	負債および資本合計	15,342	14,328	▲1,014
資産合計	15,342	14,328	▲1,014				

- 2025年3月末の財政状態です。
- 資産合計は前期末比1,014億円の減少となりました。
- 自己株式の取得や借入金の返済により、現預金が減少したことが主な理由です。
- また、資本ですが、増加要因として当期利益の計上等があったものの、自己株式の取得及び配当金の支払により微減となりました。
- 自己資本比率は前期末比で3.1ポイント増加し、52.5%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- FCF：前期はエビデントの譲渡があったため、FCFは前期比で大きく減少しているものの、特殊要因を考慮した調整後FCF¹は1,094億円のプラス
- 財務CF：自己株式の取得による支出や借入金の返済及び社債の返還、配当金支払を主要因に、2,115億円のマイナス

(単位：億円)		FY2024 通期	FY2025 通期	増減
継続事業 非継続事業	税引前利益	436	1,591	+1,155
	営業キャッシュフロー（営業CF）	424	1,905	+1,481
	投資キャッシュフロー（投資CF）	3,600	▲655	▲4,255
	フリーキャッシュフロー（FCF）	4,024	1,250	▲2,774
	調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	709	1,094	+385
	財務キャッシュフロー（財務CF）	▲2,760	▲2,115	+645
	現金および現金同等物期末残高	3,409	2,525	▲884

2024年3月期の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡に伴う法人税の支払	▲873億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,852億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円
投資CF：韓国企業の買収対価および買収解除に伴う買収対価の払い戻し	▲125億円

¹「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、
「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」など特殊要因を調整

2025年3月期の主な特殊要因

営業CF：エビデントの譲渡に関する法人税の還付	+290億円
営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩しによる支出	▲67億円
営業CF：Veran Medical Technologies社の撤退に関わる支出	▲27億円
営業CF：条件付対価の決済による支出（Odin Medical社等）	▲12億円
投資CF：投資有価証券の取得による支出	▲86億円
投資CF：条件付対価の決済による支出（Odin Medical社、Medi-tate社等）	▲48億円
投資CF：チリの販売会社の買収に伴う支出	▲39億円
投資CF：整形外科事業の譲渡に伴う収入	+68億円
投資CF：韓国企業の買収解除に伴う買収対価の戻り	+76億円

- キャッシュフローの状況です。
- 前期にはエビデントの譲渡による影響が含まれているため、一見すると今期はキャッシュフローが大きく減少しているように見えますが、特殊要因を調整したフリーキャッシュフローは前期から大きく改善しております。
- 営業キャッシュフローは、1,905億円のプラスとなりました。税引前利益の増加に加え、法人所得税の還付等により前期比大幅な増加となりました。
- 投資キャッシュフローは、655億円のマイナスとなりました。主な要因は、有形固定資産および無形資産の取得による支出です。
- フリーキャッシュフローは、1,250億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは1,094億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、2,115億円のマイナスとなりました。自己株式の取得による支出等や借入金の返済及び社債の償還、配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2025年3月末の現金および現金同等物残は2,525億円となりました。

2026年3月期 通期業績見通し 連結業績

- 1 売上高：9,990億円と前期並みの水準を見込む。為替影響調整後では前期比4%成長と堅調に推移する見通し
- 2 調整後営業利益：1,750億円、調整後営業利益率は17.5%となる見通し。将来の成長に向けた研究開発費用等の長期的な戦略投資が増加する見込み
- 3 親会社の所有者に帰属する当期利益：1,050億円、EPSは94円となる見通し
- 4 株主還元：配当水準を大幅に引き上げ、年間配当は10円増の30円を予定し、500億円の自己株式の取得を決定
- 5 米国関税政策：不確実性が高い状況であるため、米国関税政策の影響を織り込まずに見通しを開示

(単位：億円)	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後
売上高	9,973	1 9,990	+17	0%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	6,837 (68.6%)	6,795 (68.0%)	▲42	▲1%	+4%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,957 (49.7%)	5,005 (50.1%)	+48	+1%	+4%
その他の収益および費用など	▲256	▲290	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	1,625 (16.3%)	1,500 (15.0%)	▲125	▲8%	+1%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,885 (18.9%)	2 1,750 (17.5%)	▲135	▲7%	+1%
税引前利益 (税引前利益率)	1,591 (16.0%)	1,450 (14.5%)			
当期利益	1,179	1,050			
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,179	3 1,050			
EPS	103円	94円			

2026年3月期配当

4 年間配当30円を予定

- 次に、2026年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは過去1か月の平均レートに基づき1ドル145円、1ユーロ161円としています。
- 売上高は9,990億円と前期並みの水準を見込んでおります。為替影響調整後では前期比4%のプラスと堅調な事業成長を想定しております。
- 調整後営業利益は1,750億円、調整後営業利益率は17.5%となる見通しです。将来の成長に向けた研究開発費用等の長期的な戦略投資が増加する見込みです。
- 親会社の所有者に帰属する当期利益は1,050億円、EPSは94円を見込んでおります。
- 株主還元につきましては、後ほどご説明いたします。
- 米国の関税政策による影響については、不確実性が高い状況であるため、見通しに織り込んでおりません。
- 引き続き状況を注視しながら、影響の低減に向けた対応策を進めております。

2026年3月期 通期業績見通し セグメント別業績

- 1 消化器内視鏡ソリューション：将来の成長に向けた研究開発費用等の長期的な戦略投資が増加するも、北米での「EVIS X1」の新製品の拡販等により、為替影響調整後では増収増益となる見通し
- 2 サージカルインターベンション：注力領域を中心とした売上成長により、為替影響調整後では増収増益となる見通し

(単位：億円)		2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後	
消化器内視鏡 ソリューション ¹	売上高	6,740	1	6,785	+45	+1%	+4%
	営業利益 (営業利益率)	1,689 (25.1%)		1,610 (23.7%)	▲79	▲5%	+3%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,870 (27.7%)		1,735 (25.6%)	▲135	▲7%	0%
サージカル インターベンション ¹	売上高	3,228	2	3,200	▲28	▲1%	+3%
	営業利益 (営業利益率)	138 (4.3%)		140 (4.4%)	+2	+2%	+23%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	221 (6.9%)		220 (6.9%)	▲1	▲1%	+13%
全社・消去 ¹	営業損益	▲198		▲245	▲47	-	-
連結合計	売上高	9,973		9,990	+17	0%	+4%
	営業利益 (営業利益率)	1,625 (16.3%)		1,500 (15.0%)	▲125	▲8%	+1%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,885 (18.9%)		1,750 (17.5%)	▲135	▲7%	+1%

¹ 全社・消去に含まれる基礎研究等のコーポレート費用の見直しを行い、2026年3月期より消化器内視鏡ソリューション事業及びサージカルインターベンション事業に一部配賦しています。なお、2025年3月期のセグメント別の数値に関しては監査前のため変更の可能性があります

- セグメント別の通期業績見通しです。
- 消化器内視鏡ソリューション事業は、将来の成長に向けた研究開発費用等の長期的な戦略投資が増加するも、北米での「EVIS X1」の新製品の拡販等により、為替影響調整後では増収増益となる見通しです。
- サージカルインターベンション事業は、注力領域を中心とした売上成長により、為替影響調整後では増収増益となる見通しです。
- また、全社・消去に含まれる基礎研究等のコーポレート費用の見直しを行い、今期より消化器内視鏡ソリューション事業及びサージカルインターベンション事業に一部配賦しています。

株主還元

- ☑ 過去数年間の企業変革により、医療機器専門企業となり、キャッシュ創出力が向上。配当水準を大幅に引き上げ、年間配当は10円増の30円を予定
- ☑ キャピタルアロケーションの方針に基づき、運転資金および投資のための十分な手元流動性を確保した上で、500億円の自己株式の取得を決定

株主還元の推移



1 発行済株式総数に対する割合は、取締役会決議時の数値になります

- 最後に株主還元についてご説明いたします。
- キャピタルアロケーションですが、成長ドライバーへの投資を最優先とする従来の方針に変更はありませんが、当社は過去数年間の企業変革により、医療機器専門企業となり、キャッシュの創出力が向上しかつ安定してきております。
- そのような状況を鑑み、配当水準を大幅に引き上げることを決定しました。
- 2026年3月期は年間配当は前期比10円増の30円を見込んでおります。
- また、本日公表した通り、キャピタルアロケーションの方針に基づき、運転資金および将来投資のための十分な手元流動性を確保した上で、自己株式500億円の取得を決定しました。5期連続の自己株式の取得となります。
- 今後も企業価値を高める事業投資を最優先としたうえで、株主の皆様への安定した利益還元の実現に向けた資本の配分を行ってまいります。

OLYMPUS

- 今期も米国の関税政策をはじめ不透明な事業環境の継続が予想されますが、6月より発足する新経営体制の下、持続的な事業成長の実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

参考資料

開示の変更点

整形外科事業の譲渡に伴い、2025年3月期より、その他事業に含まれていた整形外科事業を非継続事業¹として開示「報告セグメント」²を内視鏡事業と治療機器事業の2区分に変更（国際会計基準）

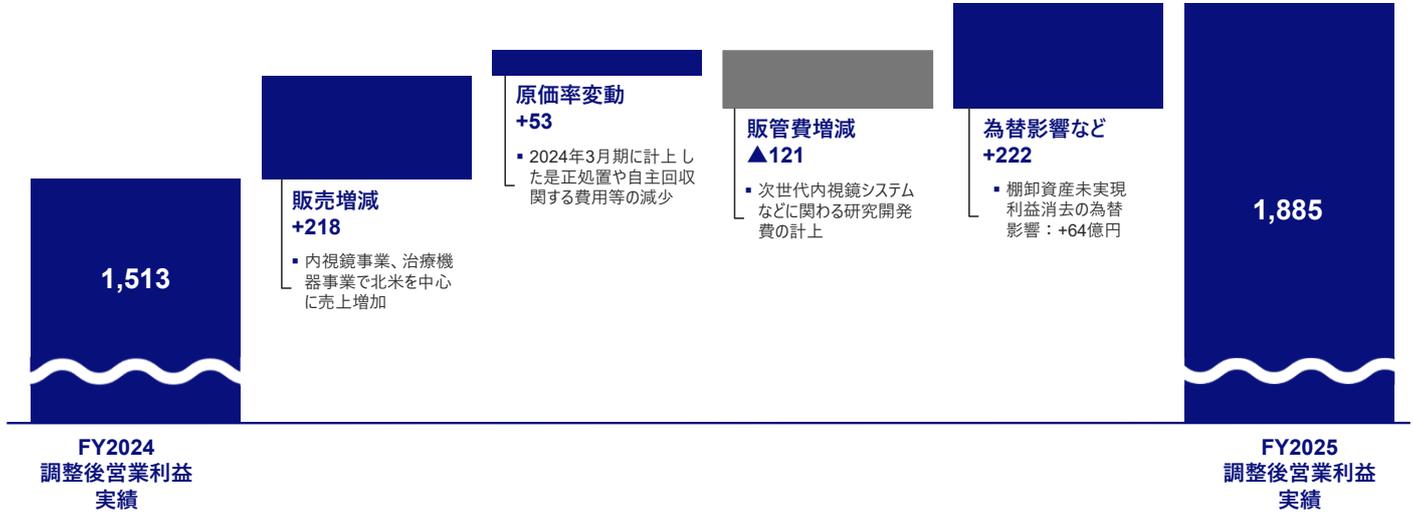


¹当連結会計年度において、当社は、PTCJ-60ホールディングス株式会社及びPTCJ-6Fホールディングス株式会社（ポラリス・キャピタル・グループ株式会社が設立した特別目的会社。以下「ポラリス・キャピタル・グループ」と総称します）に対して、オリンパス医用バイオマテリアル株式会社およびFH Ortho SAS社から構成される整形外科事業を譲渡することについて、ポラリス・キャピタル・グループとの間でプット・オプション契約を締結し、当該契約に基づき、2024年7月12日に譲渡を完了しました。これに伴い、整形外科事業に関わる損益を非継続事業に分類しており、前連結会計年度についても同様の形で表示しています。なお、売上高、営業利益、調整後営業利益、税引前利益、継続事業からの当期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。

²IFRS8.5-10「事業セグメント」の要件を満たすセグメントの内、集約基準(IFRS8.12)、量的基準(IFRS8.13)を考慮して決定されたセグメントを指します。これらの基準に基づき、当社グループは、従来「内視鏡事業」「治療機器事業」及び「その他事業」の3区分を報告セグメントとしていましたが、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを「内視鏡事業」及び「治療機器事業」の2区分に変更しており、前連結会計年度についても同様の形で表示しています。

2025年3月期 通期実績 連結調整後営業利益増減要因

通期実績 (4-3月)



(単位: 億円) * 本スライドでは継続事業の金額を表示しています。また、「為替影響など」には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」も含まれています

プロダクトパイプライン：消化器内視鏡ソリューション事業 (2025年5月13日時点)

2026年3月期の消化器内視鏡ソリューション事業における重点戦略

消化器内視鏡

- 米国市場においてEVIS X1の発売第2フェーズを開始。EDOF（被写界深度拡大技術）搭載スコープにて差別化されたラインナップを提供：高倍率と広い焦点による拡大観察により、より容易な組織の識別に寄与
- 新興国市場での市場シェア拡大をターゲットにしたアプローチを継続
- 中国での消化器内視鏡の現地生産と市場投入に向けた施策の加速
- 「Aplio」（キヤノンメディカルシステムズとの協業）と「EU-ME3」の2つの超音波内視鏡プラットフォームの導入を推進
- 2026年3月期下期に欧州および米国で最初のOLYSENSE¹製品を発売

消化器科処置具

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充
- 主要市場である米国、欧州、日本を含む地域で10以上の製品を発売

医療サービス

- 予防保守による稼働時間の拡大、予算、運用サポートなどの顧客ニーズに基づき、業界をリードするサービスを提供
- サービス部門と修理部門の緊密な連携により、効率的で顧客重視のサービスを提供

2026年3月期
売上高成長率（見通し）

4%

為替影響調整後

1%

円ベース

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1システム・スコープ
- EVIS EXERA IIIシステム・スコープ（米国、欧州）
- EVIS LUCERA ELITEシステム・スコープ（中国）
- 内視鏡用超音波観測装置 EU-ME3（欧州、日本、アジア・オセアニア）

消化器科処置具

- ガイドワイヤ Visiglide、ERCP製品
- ESDナイフ
- 生検鉗子 EndoJaw

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EXIS X1 EDOF上部消化管用ビデオスコープ（米国）
- EXIS X1 EDOF下部消化管用ビデオスコープ（米国）
- インテリジェント内視鏡医療エコシステム OLYSENSE（米国、欧州）
- 内視鏡用超音波観測装置 EU-ME3（米国、中国）

消化器科処置具

- 止血クリップ Retentia（米国、欧州、アジア・オセアニア）
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針（欧州、日本、アジア・オセアニア）
- ディスプレイ回収ネット（欧州）
- 高周波スネア（欧州）
- 大腸内視鏡先端アタッチメント EndoCuff Vision（日本）
- 止血関連ソリューション EndoClot（アジア・オセアニア）

中長期のバイプライン

消化器内視鏡

- EVIS X1スコープ（中国）
- インテリジェント内視鏡医療エコシステム OLYSENSE
- シングルユース十二指腸内視鏡

消化器科処置具

- 超音波内視鏡検査用吸引生検針（米国、中国）
- 新止血クリップ
- シングルユース胆道鏡
- 尿管ステント

¹ OLYSENSEはオリンパス株式会社およびまたはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します
(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

プロダクトパイプライン：サージカルインターベンション事業 (2025年5月13日時点)

☑ 2026年3月期のサージカルインターベンション事業における重点戦略

泌尿器科

- iTIndの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、コアのイメージング技術とプラズマ技術の普及率を向上
- SOLTIVE SuperPulsed Laser Systemにより、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がんの診断とステージ分類の分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

外科内視鏡

- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の米国及び中国（2026年3月期第1四半期）での導入を目指し、市場競争力の向上を図る

2026年3月期
売上高成長率（見通し）

3%

為替影響調整後

▲ 1%

円ベース

現在の主力製品

泌尿器科

- レゼクト電極、ESG-410
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System（米国、欧州、アジア・オセアニア）

呼吸器科

- シングルユース気管支鏡（米国）
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ディスポーザブル吸引生検針 ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡（欧州、日本、アジア・オセアニア）
- 内視鏡用超音波観測装置 EU-ME3（欧州、日本、アジア・オセアニア）

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能（米国、中国）
- VISERA 4K UHD（米国、中国）
- VISERA ELITE III（欧州、日本、アジア・オセアニア）

直近の新製品 / 発売予定の製品

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡（米国、日本）
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System（日本）
- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTInd（米国、欧州、アジア・オセアニア）
- 4Kカメラヘッド（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）
- VISERA S（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡（米国）
- 細径超音波気管支鏡（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）
- 内視鏡用超音波観測装置 EU-ME3（米国、中国）

外科内視鏡

- VISERA ELITE III（米国、中国）

中長期のパイプライン

泌尿器科

- 硬性膀胱鏡
- レーザーシステム

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡（中国）
- 細径超音波気管支鏡（中国）

外科内視鏡

- 次世代外科内視鏡システム

（注）医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

2025年3月期 四半期実績 連結業績概況

- 1 売上高：北米、欧州、中国を中心に売上を伸ばし、+6%成長
- 2 営業利益・調整後営業利益：増収および前期に計上した高速気腹装置の市場是正処置に係る費用や開発資産等の減損損失がなくなったこと等により大幅増益。調整後営業利益率は約22%

四半期実績

		(単位：億円)								
		FY2025 1Q	FY2025 2Q	FY2025 3Q	FY2025 4Q	FY2024 4Q	FY2025 4Q	前期比	為替影響調整後	
継続事業	売上高	2,348	2,392	2,512	2,721	2,577	1	2,721	+6%	+4%
	売上総利益 (売上総利益率)	1,562 (66.5%)	1,668 (69.7%)	1,680 (66.9%)	1,928 (70.8%)	1,718 (66.7%)	2	1,928	+12% (+4.1%)	+9%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,188 (50.6%)	1,191 (49.8%)	1,251 (49.8%)	1,327 (48.8%)	1,306 (50.7%)		1,327	+2% (▲1.9%)	+1%
	その他の収益および費用など	▲99	▲46	▲46	▲64	▲278		▲64	-	-
	営業利益 (営業利益率)	275 (11.7%)	431 (18.0%)	383 (15.2%)	537 (19.7%)	134 (5.2%)	2	537	+300% (+14.5%)	+271%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	372 (15.9%)	478 (20.0%)	431 (17.2%)	603 (22.2%)	412 (16.0%)		603	+46% (+6.2%)	+37%
	税引前利益 (税引前利益率)	264 (11.2%)	424 (17.7%)	364 (14.5%)	539 (19.8%)	116 (4.5%)		539	+362%	-
	当期利益	146	344	274	415	74		415	+464%	-
	親会社の所有者に帰属する 当期利益	146	344	274	415	74		415	+464%	-
	非継続事業									

¹「売上高」から「税引前利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

2025年3月期 通期実績 その他の収益および費用

(単位：億円)	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
その他の収益	34	52	+18
主な収益科目		<ul style="list-style-type: none"> 中国子会社が中国・深圳市に保有する土地使用権及び建物を深圳市政府へ返還したことに伴う補償金 12 (全社・消去) 和解に伴う、中国子会社に対する訴訟の引当金の戻入 9 (全社・消去) 	
その他の費用	1,034	313	▲721
主な費用科目	<ul style="list-style-type: none"> Veran Medical Technologies社関連損失 519 (治療機器) 品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」に係る一時的な費用 230 (内視鏡、治療機器) 開発資産などの減損損失 129 (内視鏡、治療機器) 社外転進支援制度の実施に伴う特別支援金等の費用 59 (内視鏡、治療機器、全社・消去) 韓国企業の買収解除に伴う関連費用 20 (治療機器) 	<ul style="list-style-type: none"> 品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」に係る一時的な費用 194 (内視鏡、治療機器) 社外転進支援制度の実施に伴う特別支援金等の費用 29 (内視鏡、治療機器、全社・消去) 開発資産の減損損失 26 (内視鏡、治療機器) 	

* 本スライドでは継続事業の金額を表示しています

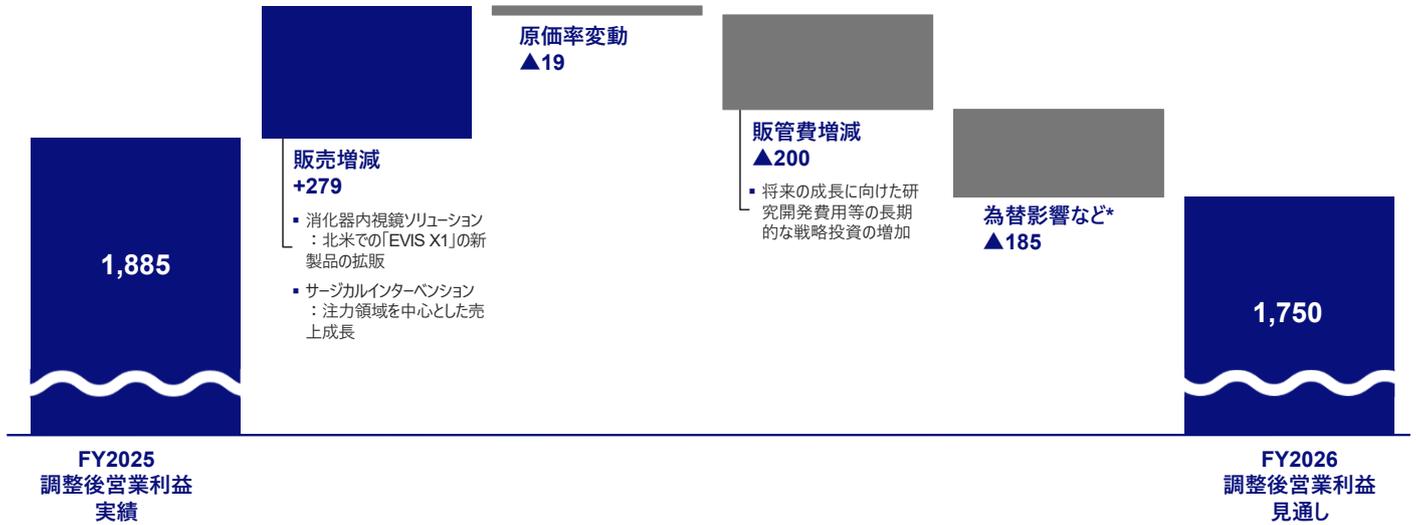
キャピタルアロケーション

- ☑ 成長ドライバーへの優先的な投資
- ☑ 安定的かつ段階的な増配
- ☑ 機動的な自己株式の取得



2026年3月期 通期見通し 連結調整後営業利益増減要因

2026年3月期通期見通し 2025年3月期通期実績比

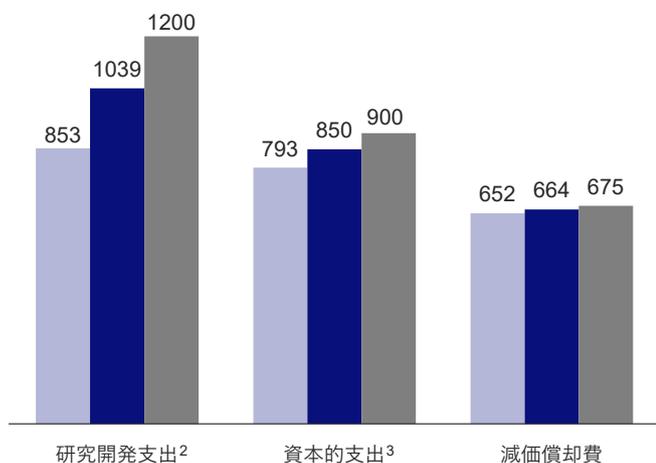


(単位：億円) * 「持分法による投資損益」が含まれています

投資実績推移および2026年3月期 通期見通し

通期実績（4-3月）および通期見通し¹

(単位：億円) ■ FY2024 ■ FY2025 ■ FY2026 通期見通し



(単位：億円) FY2024 FY2025

研究開発支出 ² (a)	853	1,039
開発費資産化 (b)	151	143
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	703	896

(単位：億円) FY2024 FY2025

償却費	83	79
-----	----	----

2024年12月末 2025年3月末

開発資産残高	630	629
--------	-----	-----

¹ 本スライドでは継続事業の金額を表示しています

² 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

³ 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2024 通期：147億円、FY2025 通期：174億円、FY2026 通期見通し：100億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1か月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2024 1Q	FY2024 2Q	FY2024 3Q	FY2024 4Q	FY2024 Total	FY2025 1Q	FY2025 2Q	FY2025 3Q	FY2025 4Q	FY2025 Total	FY2026 見通し
円/ドル	137.37	144.62	147.89	148.61	144.62	155.88	149.38	152.44	152.60	152.58	145
円/ユーロ	149.47	157.30	159.11	161.31	156.80	167.88	164.01	162.59	160.50	163.75	161
円/人民元	19.56	19.94	20.44	20.63	20.14	21.48	20.82	21.16	20.95	21.10	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	28	7
ユーロ（1円あたり）	16	6
人民元（1円あたり）	45	21

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています。また、為替感応度（年間）はFY2025Q4実績より算出しています

財務ガイダンス（2023年5月発表）の進捗

	FY 2026 目標	FY 2023 実績	FY 2024 実績	FY 2025 実績	FY 2026 見通し
 売上高成長率¹	約 5% CAGR from FY2023	-%	+0.4% ³	+1.8% ³	+2.3% ³
 EPS成長率²	約 8% CAGR from FY2023	-% ¥96.25	▲13.0% ³ ¥83.77	+10.3% ³ ¥117.17	+4.8% ³ ¥110.75
 営業利益率²	約 20%	20.3% 1,771億円	16.3% 1,513億円	18.9% 1,885億円	17.5% 1,750億円

¹ 為替前提を固定

² 特殊要因調整後

- その他の収益および費用等を除く

- 為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

³ FY2023を起点とするCAGR

略語集

略語	英語	日本語
BPH	Benign Prostatic Hyperplasia	前立腺肥大症
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡的粘膜下層剥離術

2025年3月期 四半期実績 リンク先

2025年3月期 四半期実績（1-3月）は決算参考資料よりご確認ください

項目	URL
連結決算概要	https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/02_data_Q4FY2025_jp.pdf#page=2
セグメント別情報-医療・ESD・TSD	https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/02_data_Q4FY2025_jp.pdf#page=3
セグメント別情報-全社消去	
投資他	https://www.olympus.co.jp/ir/data/brief/pdf/02_data_Q4FY2025_jp.pdf#page=6
連結キャッシュフロー計算書	